

ABSTRACT

A handle device 21 is provided on a front side of a door device 4 which closes and opens a opening portion of a device. A operating member 34 having a U-shape is movably contained in the handle device 21. A cam 11 is pivotally provided on an axis 10 and is contained in the door device 4. The operating member 34 is rotatably supported on one end of the cam 11, and the link 14 is rotatably supported at the other end of the cam 11. The other end of the link 14 is supported on the door device 4. A retaining portion having a hook portion 19 which is engaged with the engagement portion on the main body. The retaining portion 18 is engaged with or released from the receiving portion by operation of a user through operating member.

- 3 engagement portion
- 4 door device
- 10 pivotal axis
- 11 cam
- 14 link
- 18 retaining portion
- 19 hook portion
- 21 handle device
- 34 operating member

⑤ Int.Cl².
H 05 B 9/06
F 24 C 7/02
E 05 C 19/08

⑥日本分類
67 J 52
127 E 132
135 F 24

⑦日本国特許庁
公開実用新案公報
厅内整理番号 6432-58
7150-21
6858-26

⑧実開昭52-34439
⑨公開 昭52(1977). 3.11
審査請求 未請求 (全9頁)

⑩掛ヶ金装置

⑪実願 昭50-120858
⑫出願 昭50(1975)9月2日
⑬考案者 慶野長治
群馬県新田郡尾島町大字岩松
800 三菱電機株式会社群馬製作
所内
同 池上正修
同所
同 望月徹
同所
同 熊田泰治
同所
⑭出願人 三菱電機株式会社
東京都千代田区丸の内2の2の3
⑮代理人 弁理士 葛野信一

⑯実用新案登録請求の範囲

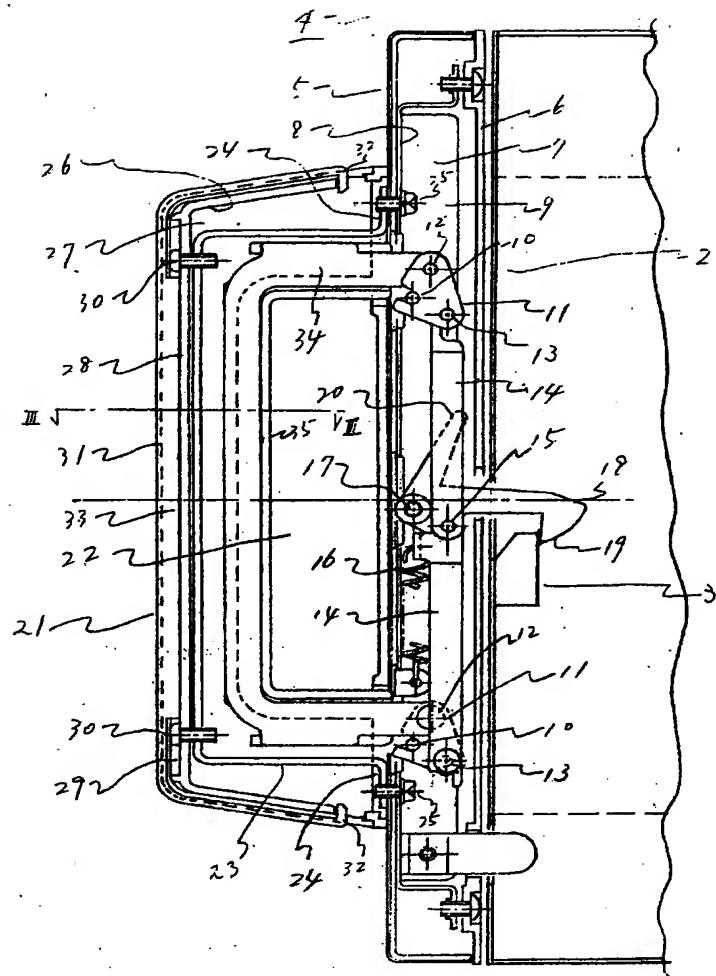
機器の開口部を開閉自在に覆う扉装置4の前面
側にハンドル装置21を立設し、このハンドル装

置に略コ字形の操作杆34を可動自在に収納し、
一方上記扉装置4の内部に枢支軸10により回動
自在に枢着したカム11を収納し、このカム11
の一端に上記操作杆34の一端を、他端にリンク
14を各々可動自在に枢支し、このリンク14の
他端は扉装置4に枢支され、本体に設けた受け金
3に係合するフック部19を有する掛け金18に
枢支し、ハンドル装置21を握る手が操作杆34
を付勢することにより上記掛け金18が受け金
13との係脱を行うよう形成して成る掛け金装置。
図面の簡単な説明

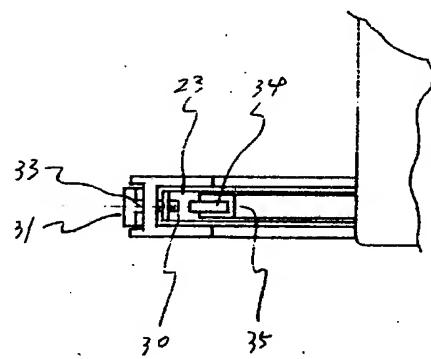
図はいずれもこの考案の実施例を示し、第1図
は扉装置の詳細を示す縦断面図、第2図は同じく
部分上面図(蓋体を取り外した状態を示す)、第3
図は第1図のIII-III部分断面図、第4図は掛け金
の可動状態を示す縦断面図、第5図は他の実施例
を示す扉装置の縦断面図である。

3は受け金、4は扉装置、10は枢支軸、11
はカム、14はリンク、18は掛け金、19はフ
ック部、21はハンドル装置、34は操作杆。

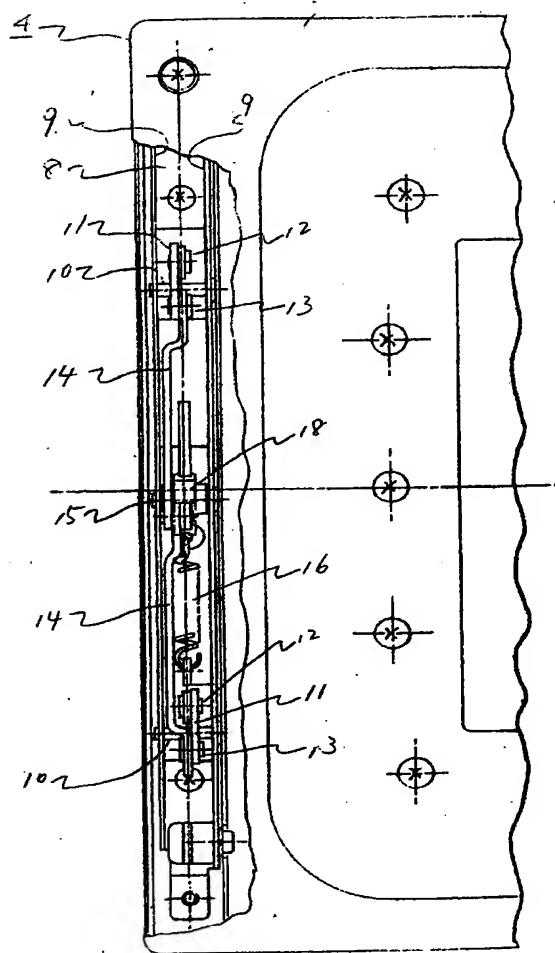
第1図



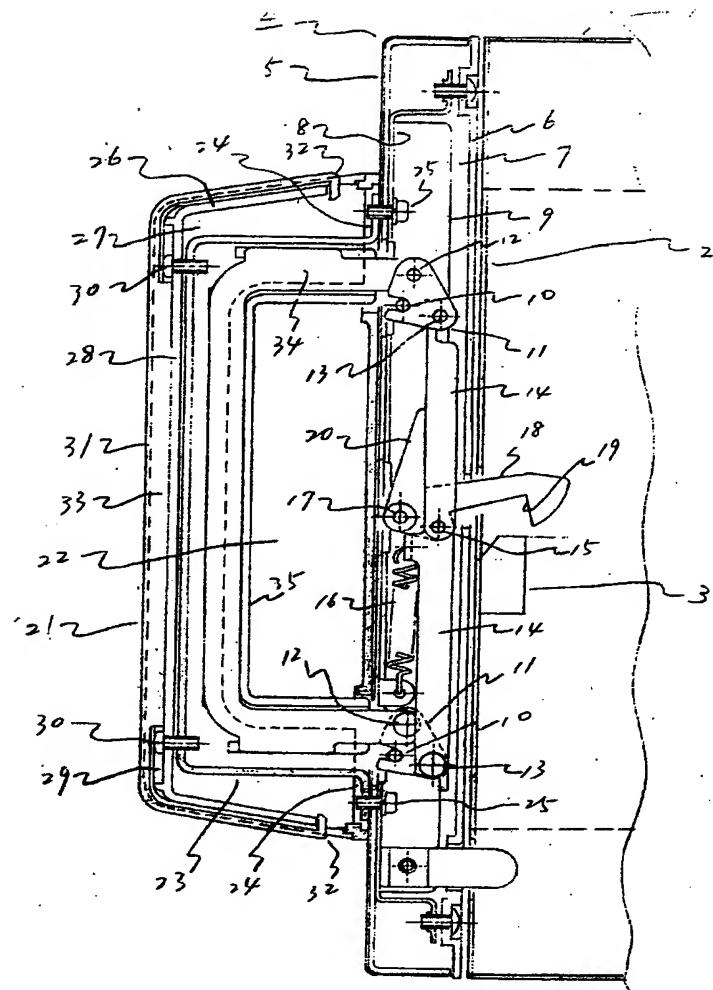
第3図



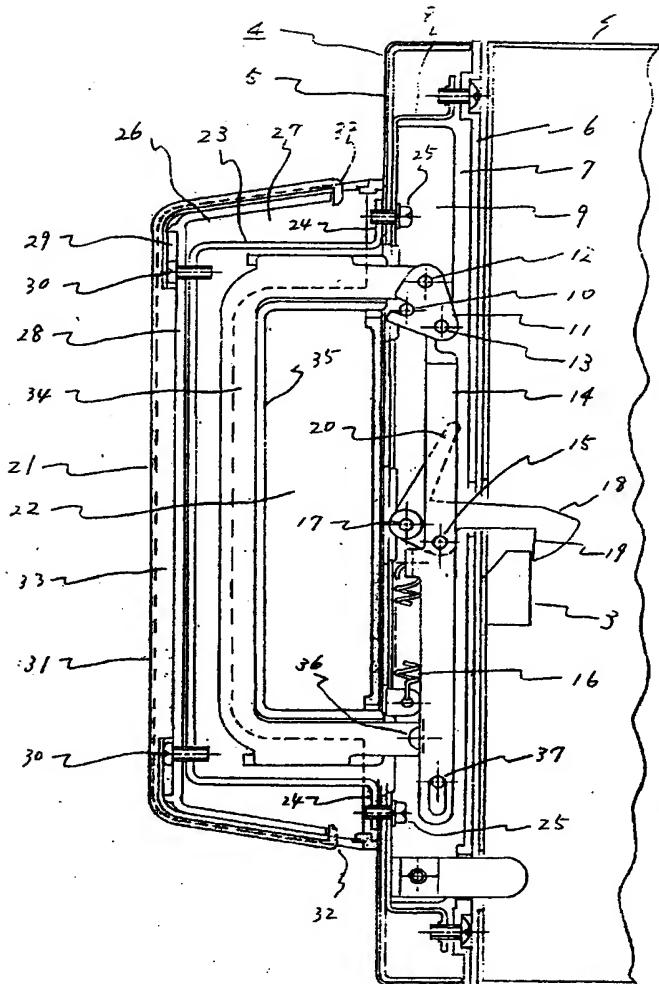
第2図



第4図



第5図



補正 昭50.10.22

実用新案登録請求の範囲、図面の簡単な説明を
次のように補正する。

⑤実用新案登録請求の範囲

機器の開口部を開閉自在に覆う扉装置4の前面側にハンドル装置21を立設し、このハンドル装置に略コ字形の操作杆34を可動自在に収納し、一方上記扉装置4の内部に枢支軸10により回動自在に枢着したカム11を収納し、このカム11の一端に上記操作杆34の一端を、他端にリンク14を各々可動自在に枢支し、このリンク14の他端は扉装置4に枢支され、本体に設けた受ヶ金3に係合するフック部19を有する掛け金18に

枢支し、ハンドル装置21を握る手が操作杆34を付勢することにより、上記掛け金18が受ヶ金13との係脱を行うよう形成して成る掛け金装置。
図面の簡単な説明

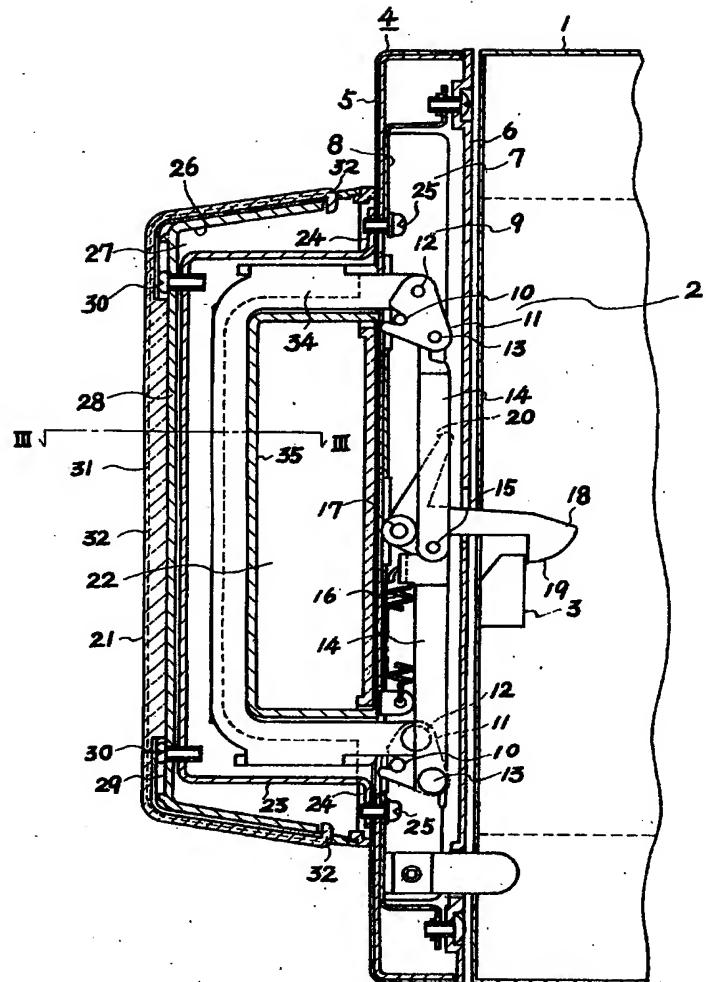
図はいずれもこの考案の実施例を示し、第1図は扉装置の詳細を示す縦断面図、第2図は同じく部分上面図（蓋板を取り外した状態を示す）、第3図は第1図のIII-III部分断面図、第4図は掛け金の可動状態を示す縦断面図、第5図は他の実施例を示す扉装置の縦断面図である。

3は受ヶ金、4は扉装置、10は枢支軸、11はカム、14はリンク、18は掛け金、19はフック部、21はハンドル装置、34は操作杆である。

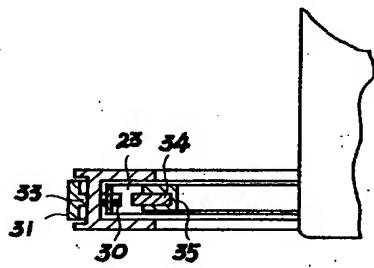
補正 昭50.10.22

図面第1図～第5図を次のように補正する。

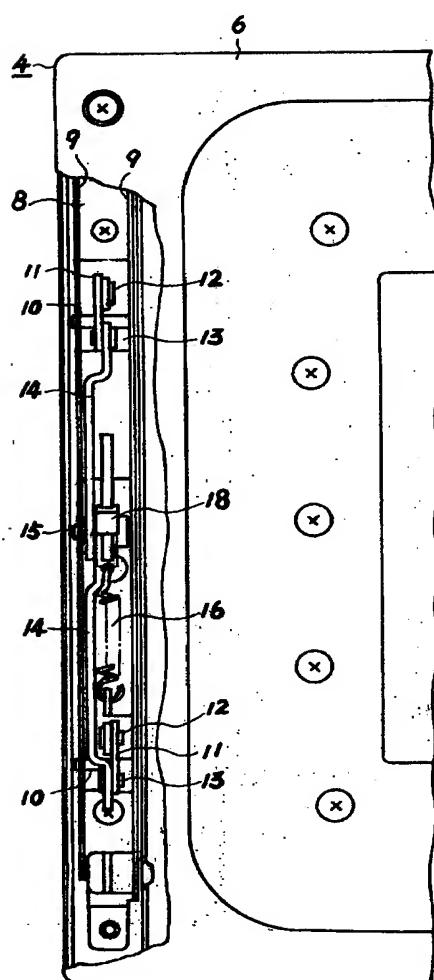
第1図



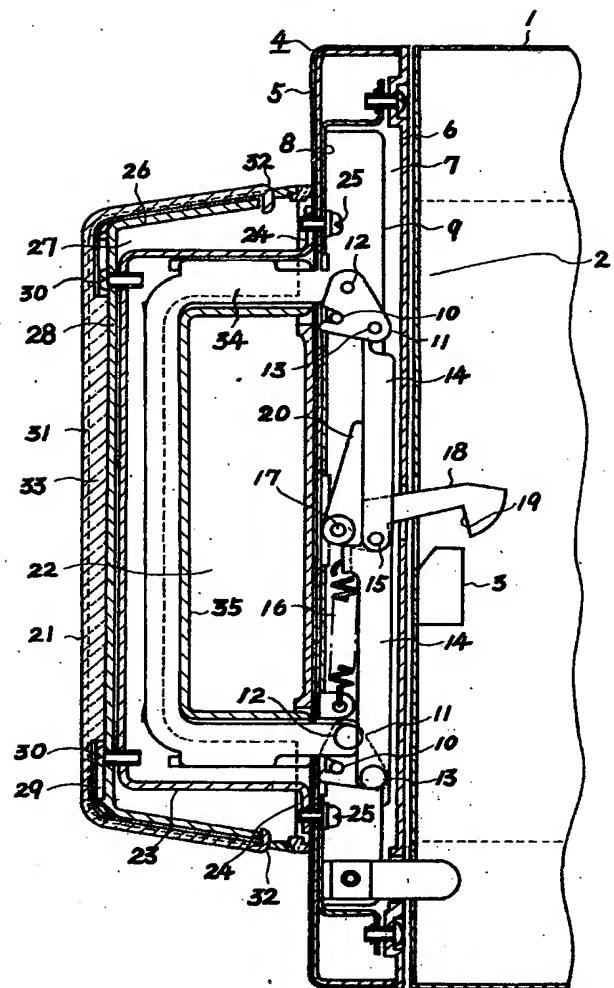
第3回



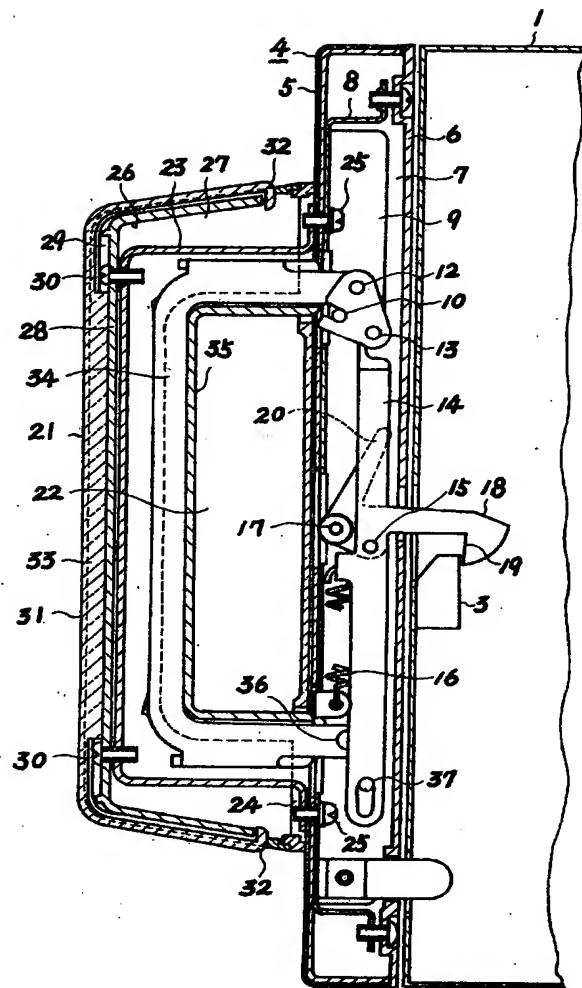
第2図



第4図



第5図



昭和50年実願第103091号(実開昭52-16670号、昭和52年2月5日発行公開実用新案公報52-167号掲載)については特許法第17条の2による補正があつたので下記の通り掲載する。

F 25 B 13/00 68 B 114

記

昭 54 9. 5 発行

1 実用新案登録請求の範囲を次のように補正する。

⑤実用新案登録請求の範囲

対空気形熱源側熱交換器6と対水形利用側熱交換器2とを備え、ヒートポンプサイクルの冷凍運転によつて、対水形利用側熱交換器2で温水を得る如くした空冷ヒートポンプ冷凍装置において、所定の温度で抵抗が急激に増大する自己電流制御特性を有する半導体素子よりなるヒータ7を前記対水形利用側熱交換器2内の流通路を含んだ水循環系の適宜個所に、水と直接的又は別の熱媒体を介した間接的な加熱可能な如く配設したことを特徴とする空冷ヒートポンプ冷凍装置。

昭和50年実願第120858号(実開昭52-34439号、昭和52年3月11日発行公開実用新案公報52-345号掲載)については特許法第17条の2による補正があつたので下記の通り掲載する。

H 05 B 9/06 67 J 52
F 24 C 7/02
E 05 C 19/08

記

1 実用新案登録請求の範囲を次のように補正する。

⑤実用新案登録請求の範囲

機器の開口部を開閉自在に覆う扉装置4の前面側にハンドル装置21を立設し、このハンドル装置に略コ字形の操作杆34を可動自在に収納する一方、上記扉装置4の内部に枢支軸10により回動自在に枢着したカム11を収納し、このカム11の一端に上記操作杆34の一端を、他端にリンク14の一端を各々可動自在に枢支し、このリンク14の他端は扉装置4に枢支され、機器の本体に設けた受け金3に係脱自在に係合する掛け金18に枢支して成る掛け金装置。

2 図面の簡単を次のように補正する。

明細書中第7頁第16行から第8頁第5行に「図は……である。」とあるのを「第1図はこの考案の一実施例を示す中央部縦断面図、第2図はその扉装置の1部切欠き要部背面図、第3図は第1図のIII-III線断面図、第4図は掛け金の動作を示す第1図と同一部分の縦断面図、第5図はこの考案の他の実施例を示す中央部縦断面図である。

図中、3は受け金、4は扉装置、10は枢支軸、11はカム、14はリンク、18は掛け金、19はフック部、21はハンドル装置、34は操作杆である。なお図中、同一符号は同一又は相当部分を示すものであると訂正する。